

2013年8月1日

各 位

日本臓器製薬、東北大学及び Clio が再生医療に関する共同研究契約締結

日本臓器製薬株式会社(本社:大阪市、社長:小西龍作、以下「日本臓器」)、東北大学及び株式会社 Clio(本社:秋田市、社長:吉田正順、以下「Clio」)は、Clio が独占的実施権を持つ Muse 細胞(Multilineage-differentiating stress-enduring cells)を利用した再生医療に関する共同研究を行うことになりましたことをお知らせいたします。

Muse 細胞は、体内の間葉系組織に広く存在し、あらゆる細胞に分化することが可能な多能性の幹細胞で、傷害を受けた細胞・組織を修復する働きを有しています。2010 年東北大学大学院医学系研究科の出澤真理教授等のグループによって発見され、今年 1 月には、日本国内で Muse 細胞の物質特許が成立をしました。

現在、骨髄移植は、白血病治療を目的として広く行われており、また骨髄、脂肪、臍帯(血)等から分離精製した間葉系幹細胞を使って、脊椎損傷、パーキンソン病、糖尿病等への幹細胞治療が世界中で臨床開発段階にあります。Muse 細胞はそれらの移植細胞に含まれる分化を司る細胞であり、造腫瘍性もないことから、Muse 細胞を主成分とする細胞を移植することで、安全で治療効果の高い幹細胞治療が実現できるものと期待されています。

今回の契約は、この Muse 細胞の特定の性質をターゲットに共同研究をすることで、今後の再生医療への応用の可能性について、段階を追って研究を進めるものとなっています。この共同研究を通じ、一刻も早く、難治性の疾病に苦しむ多くの患者さんにとって、画期的な治療法を提供できるよう努力して参ります。

—用語の解説—

1. 再生医療

病気や事故等によって失われた体の細胞、組織、器官の再生や機能の回復を目的とした医療。例えば、糖尿病、肝硬変、脳梗塞、心筋梗塞、パーキンソン病等、従来の医療では病態の進行を遅らせるか、症状の緩和しか出来なかった疾患に対して、根治や QOL を飛躍的に向上させる可能性のある医療として、近年、国内外において注目され、期待される治療法である。

2. 間葉系幹細胞

軟骨、骨、脂肪等の間葉系組織に存在し、採取や培養に関する技術が確立していることや、骨細胞、心筋細胞、脂肪細胞等への中胚葉系への分化のみならず、外胚葉系の神経細胞や内胚葉系の肝細胞等への分化も可能なことから、世界中で間葉系幹細胞を用いた再生医療に関する臨床開発が行われている。この間葉系幹細胞は、複数の細胞群からなっており、分化に加え、抗炎症、免疫抑制効果、栄養因子の産生を促す効果があることも確認されている。

【日本臓器製薬の概要】

本社： 大阪市中央区平野町2丁目1番2号
社名： 日本臓器製薬株式会社
代表者： 代表取締役社長 小西 龍作
事業内容： 医療用医薬品、一般用医薬品の研究開発・製造・販売およびプラント(精密機器)事業
株式上場： 未公開

【株式会社 Clio の概要】

本社： 秋田県秋田市飯島字砂田100-4
社名： 株式会社 Clio
代表者： 代表取締役社長 吉田 正順
事業内容： Muse 細胞を用いた再生医療等に関する研究開発
株式上場： 未公開

【本件に関するお問い合わせ】

日本臓器製薬株式会社
広報担当
電話:06-6203-0441(代表)